

# 帝国の貿易

一八・十九世紀 ユーラシアの流通とキャフタ



2008年3月7日(金) 10:00 ~ 18:00

東北大学東北アジアセンター4階 会議室

18～19世紀に露清間で行われていたキャフタ貿易に焦点を当て、広大なユーラシア大陸の流通のダイナミズムを照射する。当時、露清貿易の中心はキャフタにあり、モスクワと北京の間における商品輸送の中継拠点であった。この貿易を担ったのが、イルクーツク近郊に住むシベリア商人と清(中国)の山西商人である。大黄と茶という商品および商人の観点からこの貿易史のもつ意味を再考したい。

## 基調講演

内陸中国と海洋中国の歴史サイクル

濱下 武志 (龍谷大学)

## 第1セッション：モノの流通から見たキャフタ貿易

報告1：大黄を巡る露清関係とキャフタ交易

森川 哲雄 (九州大学)

報告2：キャフタを通じた中国茶のロシア向け輸出

塩谷 昌史 (東北大学)

## 第2セッション：商人とキャフタ貿易

報告3：キャフタ貿易に見る露清商人の組織と商慣行

森永 貴子 (北海道大学)

報告4：山西商人とキャフタにおける対ロシア貿易

劉 建生 (山西大学) 通訳付

コメント1：山西商人の観点から

高 宇 (立教大学)

コメント2：露清関係史の観点から

澁谷 浩一 (茨城大学)